

令和5年度 潟上市社会福祉協議会事業報告

法人基本理念

共に支え 共にたすけあい 共にいきる ふれあいのまちづくり

活動方針

複合的な課題、関係性の貧困、制度の狭間のニーズなどに向けて、社会福祉法が令和3年4月に改正されました。この改正により、地域共生社会の概念を事業化した「重層的支援体制整備事業」に対応する必要があります。重層的支援体制整備事業は「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの柱で構成され、どれも伴走型の支援となります。市関係部署との連携を進め、どのような相談も受け止められる基盤づくりをおこないます。また、地域の相談援助機関である当社協も既存の事業(資源)を活かしつつ、この法改正に対応する必要があります。

- ① 相談体制の強化
- ② 専門職の育成、確保
- ③ つながりの再構築
- ④ 生活支援体制整備事業による資源創出への準備
- ⑤ 災害ボランティアセンター協定の協議継続

報告概要

① 相談体制の強化

複合的な課題などに対して、法人としての相談機能強化が求められております。相談援助の基本的な所作であるバイスティックの7原則(※1)等を全職員が活用できる様に、内部研修を実施しました。模擬相談援助に関しては、今後も職員の資質向上のため、継続実施します。

② 専門職の育成、確保

令和5年度は社会福祉士2名を採用しました。今後、地域福祉分野の専門職として育成するために、複数年スーパービジョン(※2)を実施します。

内部よりの資格取得希望者が無かったため、法人としての人材育成制度の促進に取り組みます。

③ つながりの再構築

昨年度、理事会で承認を得ました「社会福祉連携推進法人 秋田圏域社会福祉連携推進会」への賛助会員加入申込をおこないました。

また、それに伴い、実務専門職間のネットワークの在り方についての協議も開始しております。

なお、法人間のネットワークが強固なものになることは、重層的支援体制整備事業に資する取り組みと位置付けております。

④ 生活支援体制整備事業による資源創出への準備

生活支援コーディネーターが中心となり、協議体の委員と社会資源調査を実施する段階となりました。調査のみで終了しないために、令和 6 年度は「生活便利帳の発刊」を目標としております。

⑤ 災害ボランティアセンター協定の締結

防災計画に記載されている「災害ボランティアセンター」の扱いを明確にするために、潟上市に協定の大枠についての説明をおこないました。その過程にて、令和 5 年 7 月の豪雨災害等にも対応可能な内容とするため再精査することとなりました。

※1 アメリカの社会福祉学者フェリックス・P・バイスティックが 1957 年に著書「ケースワークの原則」で示したものです。

- ①個別化の原則 ②自己決定の原則 ③受容の原則 ④非審判的態度の原則
- ⑤秘密保持の原則 ⑥統制された情緒的関与の原則 ⑦意図的な感情表現の原則

※2 スーパービジョン

先進の専門職が後進の専門職に対しての教育、支持、指示により後進育成に携わること。

1. 基本計画ごとの総括・事業内容について

基本目標Ⅰ 安全安心のまちづくり

<基本計画1 在宅福祉の充実>

1. 見守りネットワークの充実

○65歳以上の一人暮らし・高齢者世帯の在宅要介護者や、重度心身障がい者を抱える世帯に対して台帳登録をし、地域の方や民生児童委員を中心に見守るネットワークの体制づくりを推進しました。また、65歳未満でも特に見守りが必要な世帯などでは台帳の登録をお願いしました。

民生児童委員による小ネットワーク会議実施回数 29回

2. ふれあい安心電話の設置

○65歳以上の一人暮らしの方・高齢者世帯・身体障がい者の方の急病や災害等の緊急時に対応できるよう設置していたふれあい安心電話でしたが、令和5年10月より委託事業者が警備会社に変更となりました。市役所から警備会社への直接の委託となり、本事業は終了となりました。機器も交換となったため、すべての安心電話を取り外しました。

取り外し台数 62台（10月末までにすべて取り外し）

3. いきいきサロン

○高齢者の孤独感の解消を図ると共に仲間づくりが増進するよう、地域の会館・集会所を会場としたサロン活動を支援しました。サロン活動では、グラウンドゴルフや卓球、体操などの運動や語り、手芸など様々な活動がおこなわれました。

	団体数
令和5年度	48団体
令和4年度	50団体

【いきいきサロン代表者交流会】実施日：7月21日 29人参加

4. ふれあい交流会

○一人暮らし高齢者（70歳以上）が交流して親睦を深め、日ごろの悩みや不安の軽減してもらうことを目的に実施しました。4年ぶりに会食を伴った開催となり、温泉や買い物を楽しんでもらいました。

実施：10月17日 砂丘温泉ゆめろん

内容：おとぼけマジック

参加者：31人

5. 安全パトロール

○電気工事関係者、建築関係者から協力をいただき、一人暮らしの高齢者宅を巡回して住宅の不具合等の点検・安全確認、相談事の聞き取りをおこないました。また、消防署員とコンロやストーブなど火の元の点検、指導をおこないました。

天王地区事前調査	令和6年1月23、24日	26件
昭和・飯田川地区事前調査	令和6年1月22日	13件
天王地区	令和6年2月6日	11件（内5件小破修理）
昭和・飯田川地区	令和6年2月7日	6件（内0件小破修理）

6. 心配ごと相談

○毎週木曜日を相談日とし、天王・昭和・飯田川各センターの持ち回りで相談員（民生児童委員）が地域の方からの相談に応じました。

相談員会議では相談時の情報交換をおこない、一度の相談では解決できないケースが多くある、相談員が傾聴するだけで落ち着く場合もある、などの意見がありました。相談員研修では、相談を受ける際の基本となる傾聴スキルについての講話を頂きました。

【心配ごと相談員会議】実施日：令和5年9月26日

【心配ごと相談員研修】実施日：令和5年9月26日

【心配ごと相談件数】351件（内、相談員対応件数：14件）

【相談内容例】・権利擁護 ・資金相談 ・親族、家族関係 ・近隣トラブル
・地域の高齢者の情報提供 ・家電や生活全般の相談

7. 無料法律相談

○弁護士による、人権・財産・相続等の専門的な相談をおこないました。

相談時間は1人30分以内で、1日4人までの相談となっています。

実施日：令和5年6月9日 4人、令和5年8月18日 3人

令和5年10月13日 4人、令和5年12月8日 3人、令和6年2月9日 4人

内 容：遺産の相続について、各種トラブル(施設・住宅・家族間)等

8. 介護用品支給

○要介護度3・4・5に認定された在宅にて介護されている方に対し、在宅介護支援のため年2回（1回申請ごとの上限を7,500円とする）紙オムツを支給しました。（社協事業）

利用者数	5月実施	11月実施
令和5年度	85人	90人
令和4年度	89人	92人

○要介護度4・5と認定された市民税非課税世帯で在宅にて介護されている方に対し、毎月（年間の上限を75,000円とする）紙オムツを支給しました。（市委託事業）

利用者数	年間
令和5年度	15人
令和4年度	14人

9. 寝具類等洗濯乾燥消毒サービス

○要援護者で寝具類の衛生管理が困難な高齢者・障害者に対し、寝具類の洗濯・乾燥をおこないました。利用料は1割負担となっています。

令和5年度より市の対象者の要件が変更され、併せて社協の要件も変更したことで、対象者が減少しました。

【市・利用対象者要件】

- ① 75歳以上の方のみの世帯で、申請者が要介護1以上の認定を受けている方
 - ② 74歳以下の方が同居する世帯で、全員が要介護1以上、または障害者手帳（1・2級）等の交付を受けている方
 - ③ ①、②に準ずる世帯
- ※いずれも非課税世帯

社協分利用者数	5月実施	11月実施
令和5年度	4人	2人
令和4年度	6人	4人

市委託分利用者数	5月実施	11月実施
令和5年度	19人	13人
令和4年度	74人	92人

10. 介護機器貸出

○介護機器が必要になった方に対し、車いす・ベッド等の貸出をおこないました。

貸出延べ台数 ベッド：4台 車いす：26台 その他：1台

11. たすけあい資金貸付

○生活困窮状態の世帯へ、聞き取りによって貸付限度額上限3万円の貸付をおこないました。
特に必要と認めた者には5万円を貸付しています。

	貸付 件数	貸付金額	償還金額 (過年度含)	償還金額 (年度内貸付分)
令和5年度	40件	1,209,387円	1,376,000円	749,000円
令和4年度	52件	1,574,500円	1,626,000円	834,000円

貸付金額 50,000円 = 13件
30,000～50,000円未満 = 10件
30,000円未満 = 17件

	貸付原資	貸付総額	貸付可能額
令和5年度	7,503,633円	3,514,487円	3,989,146円
令和4年度	7,908,595円	4,086,100円	3,822,495円

令和5年3月開催の理事会で承認された、死亡や転居先不明等の事由による回収不能債権の貸倒し処理をおこないました。貸倒し件数:10件、徴収不能額:405,000円。

12. 生活福祉資金貸付

○生活困窮世帯・障がい者世帯、及び高齢者世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援をおこない、相談者が安定した生活を送るための援助をおこないました。

- ・生活福祉資金貸付決定数：3件（福祉費、教育支援費）
- ・貸付に関する相談：49件
- ・償還に関する相談：8件

13. 家族介護者交流会

○在宅で家族を介護する方、及び障がい者とその家族を対象に、交流会を開催しました。
体験をおこないながら参加者同士で介護の悩みなどを話し、リフレッシュしていただきました。

実施日：令和5年10月3日 参加者：6人
内 容：ソーセージ作り体験

14. 日常生活自立支援事業

○認知症高齢者・知的障がい者、精神障がい者等で判断能力が十分でない方々が地域社会で自立して生活できるように、福祉サービスの利用援助等を実施しました。

	利用者数
令和5年度	15人
令和4年度	13人

<基本計画2 障がい児・者の自立支援の強化>

1. 障がい児・者の社会参加のための相談機能の強化

○障がい者の自立した生活を支援するため、障がいの特性や生活ニーズに応じた訪問介護サービスを提供しました。また、障がい者とその家族からの相談を受け、障害サービス計画の作成とサービス提供事業者との調整により、サービスを利用できるよう援助しました。

件数等	自立支援 (訪問件数)	相談支援 (件数)
令和5年度	172回	82件
令和4年度	198回	86件

収入	自立支援	相談支援
令和5年度	872,440円	1,463,800円
令和4年度	1,004,808円	1,450,010円

<基本計画3 地域防災体制の強化>

1. 要援護者への支援とネットワーク活動

○有事における要援護者に対する現状把握と相談支援のため、民生児童委員の協力を得て、一人暮らしや高齢者のみの世帯の台帳を作成しました。

台帳登録数	一人暮らし高齢者数	高齢者世帯
令和5年度	727人	255世帯
令和4年度	757人	288世帯

2. 除雪体制の強化

○市役所からの依頼により、自治会や自主防災組織へ除雪機器の貸し出し業務をおこないました。

基本目標Ⅱ 助け合い支え合うまちづくり

<基本計画1 地域福祉活動の推進>

1. 福祉座談会

- 社会福祉協議会の事業の紹介と、地域とのコミュニケーションを図り、また地域の福祉課題等の検討をするため、自治会と協議し福祉座談会を開催しました。

開催状況	開催数	参加者数
令和5年度	15回	269人
令和4年度	17回	304人

【開催内容例】

- ・社協事業について
- ・日常生活自立支援事業について
- ・脳トレについて
- ・認知症について
- ・介護保険と介護サービスについて
- ・災害について

2. 福祉団体への助成

- 各団体の活動に対して助成と、事務作業について支援をおこないました。

【助成団体】

- ・潟上市身体障害者協会
- ・潟上市手をつなぐ育成会
- ・潟上市ボランティア団体連絡協議会

3. 社会福祉大会

- 自治会長・民生児童委員・ボランティア団体など地域関係者が一堂に会し、長年にわたる福祉功労者やふくしの作文コンクールの表彰をおこないました。また、秋田県総務部総合防災課による、近年の自然災害と県の防災体制についての研修をおこないました。

開催日：令和5年11月11日

会場：トレイクかたがみ

参加者：約130人

社会福祉功労・・・3人

地域福祉功労・・・3団体、1人

在宅福祉功労・・・3人

社会福祉功労（退任民生児童委員）・・・11人

社会福祉功労（退任福祉員）・・・6人

ふくしの作文 最優秀作品 小学生の部 1人 中学生の部 1人

優秀作品 小学生の部 11人 中学生の部 10人

応募数 小学生=262編 中学生=90編

<基本計画2 地域ネットワークの再構築>

1. 共生社会への取り組みへの一助

○分野横断的な相談援助をおこない、多職種・異種職との連携が求められます。相談者の複合的な生活課題に対応できる職員の育成として、相談援助についての研修をおこないました。

2. 生活支援体制整備事業

○地域住民での支え合いの仕組みづくりを検討しました。

【地域支え合い推進協議体会議】

一層実施日 : 令和6年2月29日

二層天王中学校区実施日 : 令和5年6月30日、9月20日、令和6年2月6日

二層羽城中学校区実施日 : 令和5年6月28日、10月27日、令和6年2月9日

二層天王南中学校区実施日 : 令和6年2月27日

【ぷらっと】

潟上市内のスーパーや施設等のフリースペースを利用し、2ヶ月に1回、地域の居場所づくりを目指し、市民の方が気軽に集い交流を深めることを目的として実施しました。

交流の場を目指し、市民が気軽に集い交流を深めることで各地域でのサロン活動への展開を目的としていましたが、参加者が少なく来年度は事業内容の検討をおこないます。

開催場所	開催日	参加者数	内容
クレタ	4/12、6/14、8/9、10/11、12/6、 2/14	延べ36人	脳トレ、ラジオ体操、写仏、 ビンゴ、雛飾り作り等
いとく	4/20、6/22、8/17、10/19、12/14、 2/22	延べ83人	

3. 法人連携による地域公益活動推進

○市内社会福祉法人と連携して「いろどり Café つど〜れ」を開催し、フリーペーパーを発行しました。

・連携先

- 社会福祉法人敬仁会地域密着型特別養護老人ホーム聚恵苑及び関連施設
- 社会福祉法人ふたあら福祉会特別養護老人ホームわかば園
- 社会医療法人正和会グループホームまめだすか
- 社会福祉法人南秋福祉会つくし苑

・いろどり Café つど〜れ 実施日、来場者数、内容

令和5年10月24日	3人(防虫袋づくり、介護相談、車いす活用講座)
令和5年10月25日	12人(防虫袋づくり、ガーランドづくり)
令和5年12月12日	8人(埃取りづくり、介護相談、レク・体操)
令和5年12月13日	21人(埃取りづくり、しめ縄飾りづくり)
令和6年3月26日	15人(くるみボタンづくり、老人ホーム紹介)
令和6年3月27日	3人(オイルボトル、車いす体験、お仕事紹介)

・フリーペーパー発行 (8, 9, 10, 11, 1, 2月)

基本目標Ⅲ 安心介護のまちづくり

<基本計画1 居宅介護サービスの強化>

1. 居宅介護支援

○要介護認定を受けた利用者と家族からの相談を受け、介護サービス計画の作成とサービス提供事業所との調整により、サービスを利用できるように援助しました。

件数	ケアプラン	予防プラン
令和5年度	885件	257件
令和4年度	765件	256件

収入	ケアプラン	予防プラン
令和5年度	13,437,450円	1,177,560円
令和4年度	11,622,750円	1,111,860円

2. 訪問介護

○病気や高齢のため、介護や生活援助が必要な要支援者の自宅を訪問して、身体介護や家事援助などのサービスを提供しました。

訪問回数	訪問介護	介護予防
令和5年度	1,594回	713回
令和4年度	1,526回	836回

収入	訪問介護	介護予防
令和5年度	6,096,017円	2,199,382円
令和4年度	6,128,636円	2,647,054円

3. 特定旅客自動車運送

○要介護認定を受け、当会の訪問介護サービスを利用している方で院内介助が必要な方を対象とし、利用者の通院時に送迎と院内介助をおこないました。

利用回数	特定旅客
令和5年度	204回
令和4年度	266回

収入	特定旅客
令和5年度	168,720円
令和4年度	220,160円

訪問介護事業は社協合併以来、赤字の状態で開催してまいりました。令和5年度は運営改善計画を策定し黒字化を目標に事業を実施いたしましたが、抜本的な改善とはならず、令和6年3月31日をもって休止いたしました。

基本目標Ⅳ 学び参加するまちづくり

<基本計画1 福祉教育の推進>

1. 福祉教育助成

○児童生徒の福祉の心を育てるために、小学校及び中学校に対して各校10万円を限度として福祉教育事業に対して助成金を交付しました。

小学校	天王小	東湖小	出戸小	追分小	大豊小	飯田川小
助成額	99,386円	72,118円	59,344円	99,862円	99,726円	99,675円

中学校	天王中	天王南中	羽城中
助成額	32,035円	52,051円	58,100円

2. 修学旅行助成

○要保護及び準要保護世帯の小学生及び中学生が、健全で楽しく修学旅行に参加できるように小学生は5,000円、中学生は10,000円を助成しました。

小学校助成数	合計	天王小	東湖小	出戸小	追分小	大豊小	飯田川小
令和5年度	29人	6人	3人	3人	5人	7人	5人
令和4年度	13人	5人	1人	1人	4人	1人	1人

中学校助成数	合計	天王中	天王南中	羽城中
令和5年度	25人	9人	12人	4人
令和4年度	21人	9人	5人	7人

○要保護及び準要保護世帯の小学生及び中学生に対して、新入学のお祝いとして就学支援（小学生は5,000円、中学生は10,000円）を実施しました。

小学校助成数	合計	天王小	東湖小	出戸小	追分小	大豊小	飯田川小
令和5年度	19人	8人	4人	0人	5人	1人	1人
令和4年度	19人	8人	1人	0人	6人	1人	3人

中学校助成数	合計	天王中	天王南中	羽城中
令和5年度	16人	6人	8人	2人
令和4年度	17人	6人	8人	3人

3. ひとにやさしいまちづくり探検隊

○例年は市内の小学5年生、6年生を対象として障がい者の方々とのふれあい交流や車いすでの買い物体験をおこなっています。新型コロナウイルスの影響により、希望学校での体験となり、天王小学校で車いす体験学習、及び追分小学校で高齢者疑似体験をおこないました。

4. ボランティアスクール

○市内の中学生に対し、福祉に対する意識を高め、積極的なボランティア活動や、地域や仲間と支え合う心を育むことを目的として講演会を開催していましたが、新型コロナウイルスの影響により開催は見送り、盲導犬使用者の会会長から、盲導犬についての注意点や全国の盲導犬の数などについて話していただいたものを撮影したDVDの視聴を各学校に依頼しました。

<基本計画2 ボランティア活動の促進>

1. 災害ボランティアセンター

○大規模災害が発生した際に、被災地外から支援に駆け付けるボランティアを受け入れる体制を作り、災害発生時のボランティア活動を効率よく推進します。

7月の大雨災害により五城目町社協、秋田市社協では災害ボランティアセンターを開設しました。潟上市社協からも3名の職員を派遣しました。

令和5年7月21日～8月11日（延べ19日）

2. ボランティア研修会

○ボランティアに関心がある方を対象に研修会をおこないました。

【ボランティア研修】実施日：令和5年6月28日

演題：「SDGsとは・秋田県SDGsパートナー制度について」

【ボランティア団体研修】実施日：令和5年10月25日

内容：TDK歴史みらい館 見学

3. 介護予防ボランティア

○高齢者を対象に開催する介護予防教室などで、指導の補助や送迎バスのボランティアとして協力をおこないました。生活支援コーディネーターが、市役所主催の介護予防教室に参加しました。

登録数：63名

4. ボランティア団体活動の推進

○ボランティアが安心して活動に取り組めるよう、ボランティア活動保険の加入手続き等をおこないました。今年度は、7月の大雨災害時に多くの申請がありました。

また、活動を支援するため、活動助成金を支給しました。

ボランティア団体登録数：36団体

個人ボランティア登録数：5名

災害ボランティア登録数：17名

各団体の活動内容：除雪、草刈り、施設訪問、読み聞かせ、子ども食堂運営、
ゴミ清掃活動、託児、公共施設・通学路等の環境整備等

基本目標Ⅴ 地域福祉活動の基盤づくり

<基本計画1 広報活動の充実>

1. 社協だよりの発行、会報の発行

○社協のおこなっている事業や行事等をお知らせするため、「社協だより」を年6回、「会報社協」を年1回発行しました。

<基本計画2 財政基盤の強化>

1. 共同募金運動の推進

○戸別、法人、職域、学校へ募金の協力を依頼し、募金運動を10月1日からおこないました。

	募金合計金額
令和5年度	4,085,337円
令和4年度	4,487,019円

1. 財源確保と財政基盤の強化

○住民の皆様から一般会員1,000円、特別会員2,000円以上、団体会費5,000円以上をいただき、安定した事業運営につなげていきます。

会費	合計	一般	特別	団体
令和5年度	7,931,000円	6,985,000円	51,000円	895,000円
令和4年度	8,303,000円	7,285,000円	78,000円	940,000円

	協力金
令和5年度	500円
令和4年度	1,000円

会員数	合計	一般	特別	団体
令和5年度	7,310人	6,985人	22人	168団体
令和4年度	7,497人	7,285人	34人	178団体

○寄付金

件数・金額	合計		香典返し		一般寄付		物品寄付
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数
令和5年度	31件	547,784円	13件	455,000円	10件	92,784円	8件
令和4年度	27件	342,620円	9件	300,000円	8件	42,620円	10件

<基本計画3 体制整備の促進>

1. 屋内ゲートボール場の管理運営

○「すぱーく天王」の管理運営をおこなっています。屋内施設のため、冬季間の利用希望が多くありました。

利用者数	合計	ゲート ボール	グラウンド ゴルフ	スポ少	その他
令和5年度	9,386人	630人	4,117人	2,978人	1,661人
令和4年度	10,341人	792人	4,205人	3,236人	2,108人

開場日数=276日 令和4年度=295日